

# 計画の達成状況の評価について

令和3年（2021年）10月5日  
能勢町



能勢PR キャラクター  
「お浄・るりりん（アマビエver）」

# 1. 各主体の役割

○ 将来にわたって持続できる公共交通を確保するためには、「住民」、「事業者」、「町」それぞれが、果たすべき役割を十分に理解・認識し、協働・連携により、取組む必要がある。

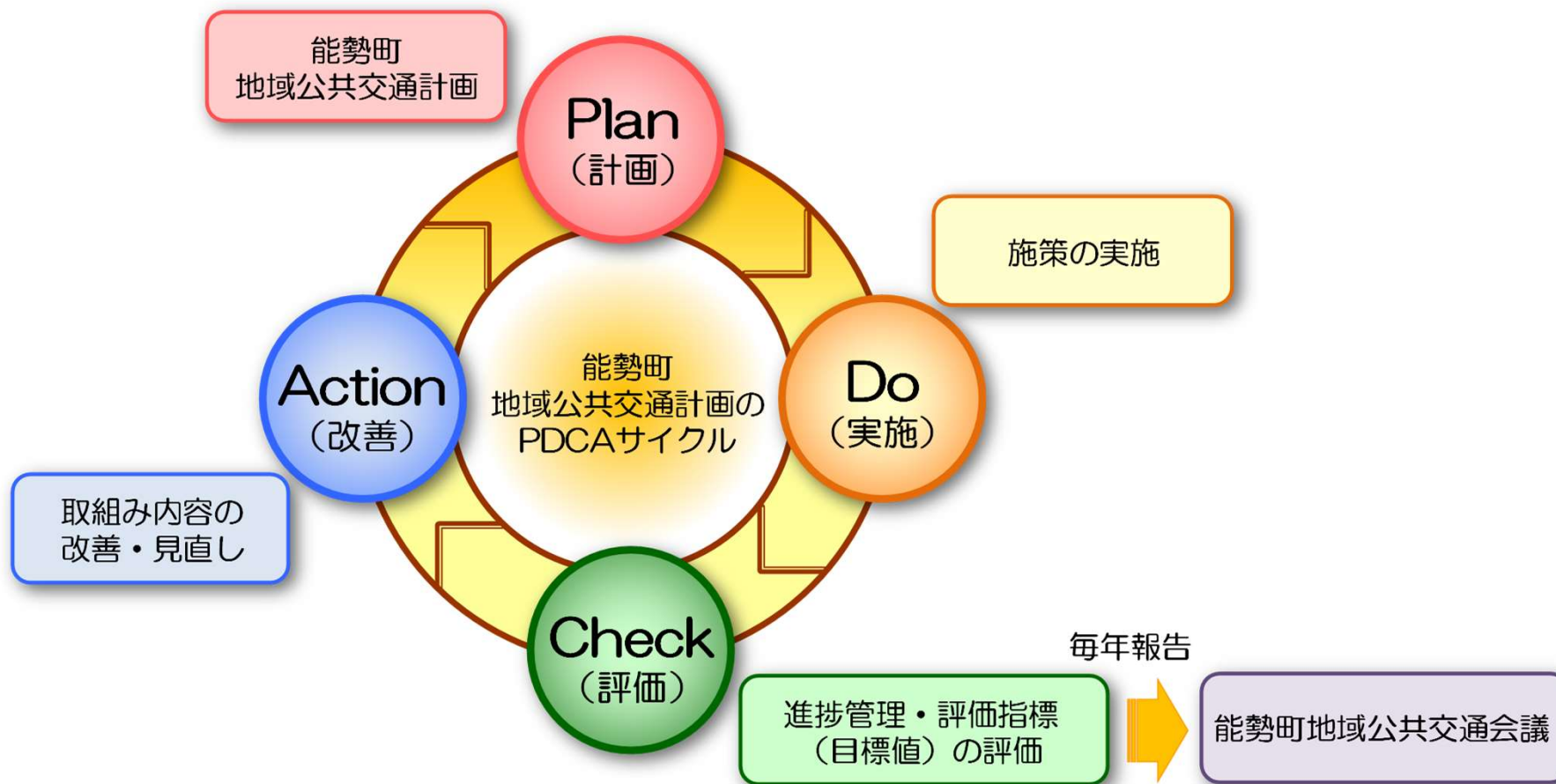
## ●各主体による役割分担のイメージ



## 2. 計画の進行管理

- 計画の推進にあたっては、PDCAサイクル（計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action））に基づいて、能勢町地域公共交通会議において、計画の進捗確認と効果の検証・評価を行うものとする。
- 能勢町総合計画や能勢町都市計画マスタープラン等の上位計画・関連計画の改定、国や大阪府における関連する法令・計画の見直し、社会情勢の変化などにも配慮して、適宜見直しを行う。

### ●PDCAサイクルによる施策の推進・評価



### 3. 評価指標と目標値の設定

#### ■ 指標・目標値の必要性

- 目標の達成に向けて実施する施策について、施策実施による効果が発現しているか確認することで、状況に応じたスケジュールや施策内容等の見直しができる。
- 住民に対して、計画の取組み状況を伝えるとともに、利用者の立場として積極的に公共交通を利用する意識を醸成する。
- 事業実施主体にとって、計画の中における施策の効果を確認し、さらなる施策実施に向けたモチベーション（動機づけ）とする。
- 「指標の明示化」（施策・事業の実施により発生する効果・成果を表すアウトカム指標など）が求められるため、可能な限り定量的で分かりやすい指標を設定する。

### 3. 評価指標と目標値の設定

○ 本計画における評価指標と目標値の設定を以下のように設定する。

#### ■目標① 持続可能な公共交通ネットワークの構築

##### ○公共交通カバー面積

現在値：10.2 km<sup>2</sup>  
(R2年度)



目標値：18.2 km<sup>2</sup>  
(R8年度)

- ・ 地域特性に対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築や新たな交通システムの導入による持続可能な公共交通ネットワークの構築の効果を測る指標として、公共交通カバー面積を設定する。基幹交通や地域交通による公共交通ネットワークの拡充による公共交通カバー面積の向上を目標に18.2km<sup>2</sup>以上とする

##### ○公共交通への財政負担金額

現在値：5,833 万円/年  
(R2年度)



目標値：4,000 万円/年  
(R8年度)

- ・ 持続可能な公共交通の構築に向けた運行効率性の向上を測る指標として、年間財政負担額を設定する。新たな交通システムの導入により、一定の負担増加が見込まれる中、経済性・効率性を考慮した運行の実現を目標に4,000万円/年未満とする。

### 3. 評価指標と目標値の設定

#### ■目標② 公共交通機関相互の連携強化と利便性の向上

##### ○基幹交通による町外への移動者数

集計中

現在値：〇〇〇 人/日  
(R2年度)



目標値：〇〇〇 人/日  
(R8年度)

- 町内の交通結節拠点と町外にある能勢電鉄の鉄道駅を結ぶ基幹交通の利用状況を測る指標として、町域をまたいで利用する移動者数を設定する。基幹交通の機能強化や地域交通との連携等の取組みにより、基幹交通の利用機会の増加や利用環境の改善が図られ現在の減少傾向に歯止めをかけ現状を維持することを目標に●●●人/日とする。

##### ○地域交通の利用者数

現在値：（運行していない）  
(R2年度)



目標値：25人/日  
(R8年度)

- 町内の各地区と町内の拠点となる交通結節拠点を結ぶ地域交通の利用状況を測る指標として、地域交通利用者数を設定する。地域交通である新たな交通システムの運行等の取組みにより、地域交通の利用機会創出や公共交通利用環境の改善等が図られ、住民に利用されることを目標に25人/日とする。

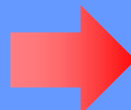


### 3. 評価指標と目標値の設定

#### ■目標③ 公共交通をみんなで創り、守り、育てる意識の醸成

##### ○公共交通利用者数

現在値： 339人/日  
(R2年度)



目標値： 364人/日  
(R8年度)

- 各交通手段が適切に機能分担されたネットワークの構築とともに、地域住民の公共交通に対する意識醸成による利用機会の増加状況を測る指標として、公共交通利用者数を設定する。公共交通の利用者が増加するものと期待できる。地域住民が、「当事者意識」を持ち、自ら公共交通を乗って支えることで、公共交通利用者数が増加することを目標に364人/日とする。